

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習II						
担当教員	西垣内 泰介					科目ナンバ-	DL7010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	文法理論の特定的研究						
授業の概要	最近の文法理論で注目されているWh構文に関わる諸現象の諸相を関連する最近の著作を検討しながら考えていきたい。特に様々な言語におけるスコープと省略現象、イントネーションとの関わりを中心に新しい見方を探っていきたい。						
到達目標	文法理論の最先端の考え方について専門的な理解を深め批判的に議論することができる。[知識・理解] 言語能力のあり方について専門的に考えることができ、独自の分析を含む研究発表をすることができる。あるいはその見通しができる。[知識・理解] 授業の内容を自分の学位論文の進展に役立てることができる。[態度・志向性]						
授業計画	第1回 日英語のWH構文 統語的移動 第2回 日英語のWH構文 LF 移動 第3回 日英語のWH構文 スコープの問題 第4回 日英語のWH構文 束縛現象との関係 第5回 日英語のWH構文 まとめ 第6回 分裂文の論理構造 指定文と指定文 第7回 分裂文の論理構造 指定文の派生 第8回 分裂文の論理構造 指定文と束縛現象 第9回 分裂文の論理構造 指定文とスコープ 第10回 分裂文の論理構造 まとめ 第11回 イントネーションとスコープ 疑問文とイントネーション 第12回 イントネーションとスコープ 多様性の問題 第13回 イントネーションとスコープ 実験的分析の方法 第14回 概観 第15回 概観と展望 第16回 WH構文と省略現象 先行研究 第17回 WH構文と省略現象 移動 vs. 再構築 第18回 WH構文と省略現象 連関性 第19回 WH構文と省略現象 統語的制約との関係 第20回 局所性との関係を重点的に 先行研究 第21回 局所性との関係を重点的に 移動と削除 第22回 局所性との関係を重点的に 「そのまま」での削除 第23回 局所性との関係を重点的に まとめ 第24回 視点現象 先行研究 第25回 視点現象 機能主義のアプローチ 第26回 視点現象 構造にもとづくアプローチ 第27回 視点現象 英語における現象 第28回 視点現象 阻止効果 第29回 視点現象 まとめ 第30回 概観						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で扱っている問題を自主的に考え、関連する文献に注意を払う。 授業前：次の授業で学習する内容について準備し、関連する参考文献を調べる。 授業後：授業で学習した内容を復習し、授業で示された参考文献を読む。 準備と復習に最低2時間必要です。 授業の予習・復習にとどまらず、常に研究に関わる活動を行うことが必要。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	履修者は各自の現在の関心領域について発表する。評価はその内容と学期末のレポートによる。						
履修上の注意	特になし。						

教科書	教室で指示する。
参考書	

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習Ⅰ						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	DL7060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする意味論						
授業の概要	言葉と意味との関係を理解したのち、我々が言葉の意味をどのように理解しているかを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 言葉と意味との関係を掴む。</p> <p>b. 言語の曖昧性・多義性を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>d. 意味の計算過程を辿ることができる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 言葉と意味との関係</p> <p>03: 意味論と語用論との違い</p> <p>04: 第1章の講読</p> <p>05: 集合と関数</p> <p>06: 第2章の講読</p> <p>07: 命題論理</p> <p>08: 第3章の講読</p> <p>09: 述語論理</p> <p>10: 第4章の講読</p> <p>11: 構造、範疇、類型</p> <p>12: 第5章の講読</p> <p>13: 第6章の講読</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題：50%</p> <p>到達目標（1, 3）の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題：50%</p> <p>到達目標（2, 3）の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	田中 拓郎（2016）『形式意味論入門』開拓社						
参考書	吉本 啓・中村 裕昭（2016）『現代意味論入門』くろしお出版						

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習III						
担当教員	郡司 隆男					科目ナンバ-	DL7020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	言語の形式化、特に意味に関する問題の形式的な取り扱い。						
授業の概要	意味論・言語情報の機械処理に関係する最近の話題から題材をとり、文法の形式化とその表示の関係、人間の情報処理行動に関するモデル化とその効率的な処理などの問題について考察する。 それに基づき、言語を形式的な手段によって分析し、論理的に考察できるようになることを目的とする。						
到達目標	(1) 言語学的に適切なトピックを選んで設定することができる。【知識・理解】 (2) 自分の選んだトピックについて短い論文を書くことができる。【汎用的技能】 (3) 自分の考察をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。【汎用的技能】 (4) 研究の方向付けについて自主的に考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>以下は年間の大体の進行予定。仮に受講生が3人いることを想定しているが、2人目、3人目の代わりに研修生、研修員が担当する場合もあり得る。また、臨時に学会発表が入ったなどの場合は、そちらを優先する。</p> <p>第1回：導入、今後の方針 個々の学生のテーマの決定  第2回：担当者より提供するトピックのディスカッション：基本編  第3回：担当者より提供するトピックのディスカッション：応用編  第4回：1人目の学生の関心のあるテーマについての発表  第5回：1人目の学生の関心のあるテーマについての討論  第6回：2人目の学生の関心のあるテーマについての発表  第7回：2人目の学生の関心のあるテーマについての討論  第8回：3人目の学生の関心のあるテーマについての発表  第9回：3人目の学生の関心のあるテーマについての討論  第10回：春の学会発表を控えた1人目の学生による発表・討論  第11回：春の学会発表を控えた2人目の学生による発表・討論  第12回：春の学会発表を控えた3人目の学生による発表・討論  第13回：1人目の学生の夏休みの課題の提示  第14回：2人目の学生の夏休みの課題の提示  第15回：3人目の学生の夏休みの課題の提示  第16回：1人目の学生の研究の進展状況の報告  第17回：1人目の学生の研究の進展状況の討論  第18回：2人目の学生の研究の進展状況の報告  第19回：2人目の学生の研究の進展状況の討論  第20回：3人目の学生の研究の進展状況の報告  第21回：3人目の学生の研究の進展状況の討論  第22回：秋の学会発表を控えた1人目の学生による発表・討論  第23回：秋の学会発表を控えた2人目の学生による発表・討論  第24回：秋の学会発表を控えた3人目の学生による発表・討論  第25回：1人目の学生の今年度のまとめ  第26回：2人目の学生の今年度のまとめ  第27回：3人目の学生の今年度のまとめ  第28回：1人目の学生の来年度の抱負  第29回：2人目の学生の来年度の抱負  第30回：3人目の学生の来年度の抱負</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回発表担当者を決めるので、授業前に十分に準備して、資料を用意して他の受講者に配布しておくこと（学習時間：4時間）。						
授業方法	セミナー形式。						
評価基準と評価方法	クラスでの発表（おおむね8割）、レポートなど（おおむね2割）による。						
履修上の注意	特になし。小人数のクラスなので、やむを得ず欠席する場合は、事前に gunji@shoin.ac.jp にメールで連絡すること。						

教科書	授業中に指示する。
参考書	授業中に指示する。

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習Ⅳ						
担当教員	松田 謙次郎					科目ナンバ-	DL7030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	社会言語学・変異理論関連論文の執筆・学会発表へ向けて						
授業の概要	特に博士課程の院生にとって、学会発表（ポスター発表、口頭発表）を行うこと、そして論文執筆を行うことがきわめて重要であることは言うまでもない。この授業では、各自が抱える社会言語学・変異理論関連のトピックについて毎回発表を行ってもらい、論文執筆、学会発表を目標にした準備を行ってもらおう。松田も現在進行中のテーマ・論文について発表を行い、受講者とディスカッションを行う。各々のトピックに対するディスカッション、そして発表や執筆途中の論文への参加者同士のフィードバックはもちろん、発表応募の書き方、実際の学会発表が決定した（ている）場合にはその予行演習にも充てる。加えて、学期中に開催される諸学会での口頭発表について報告をしてもらい、受講生同士で批判を加え合う。実践的な面では、ハンドアウトの作成、PowerPointを始めとするパソコンを使用した発表の練習、質疑応答の模擬演習など、学会発表の訓練も行う予定である。参加者は、学会発表への実際の応募、または最低限、応募可能なレベルの原稿作成を義務づけられることになる。						
到達目標	博士論文執筆への準備に拍車を掛け、学生が博士論文完成を射程距離内に収めることができる。						
授業計画	第1回 前期イントロ 第2回 発表で気をつけるべきこと 第3回 スライドの書き方 第4回 プレゼンの実践的講習 第5回 院生による現在のテーマ紹介 第6回 松田の現在の研究テーマに関する発表 1: 可能形研究 第7回 松田の現在の研究テーマに関する発表 2: 格助詞「を」のゼロマーク化研究 第8回 可能形研究・格助詞「を」のゼロマーク化研究に関する議論 第9回 文献・学会報告 第10回 松田の現在の研究テーマに関する発表 3: 国会会議録研究 第11回 松田の現在の研究テーマに関する発表 4: 地方会議録研究 第12回 国会会議録研究・地方会議録研究に関する議論 第13回 院生による現在のテーマに関する中間発表 第14回 院生による現在のテーマに関する中間発表に関する議論 第15回 前期まとめ 第16回 後期イントロ 第17回 松田の現在の研究テーマに関する発表 5: 法令における言語変異/変容 第18回 松田の現在の研究テーマに関する発表 6: 岡崎敬語調査 第19回 法令における言語変異/変容・岡崎敬語調査に関する文献紹介 第20回 法令における言語変異/変容・岡崎敬語調査に関する議論 第21回 松田の現在の研究テーマに関する発表 7: 岡田コレクションの分析 第22回 松田の現在の研究テーマに関する発表 8: 国会審議映像検索システムの活用 第23回 岡田コレクションの分析・国会審議映像検索システムの活用に関する文献紹介 第24回 岡田コレクションの分析・国会審議映像検索システムの活用に関する議論 第25回 松田の現在の研究テーマに関する発表 9: ネットの集団語 第26回 松田の現在の研究テーマに関する発表 10: 日本の社会言語学史 第27回 ネットの集団語・日本の社会言語学史に関する文献紹介 第28回 ネットの集団語・日本の社会言語学史に関する議論 第29回 院生による現在のテーマに関する最終発表 第30回 院生による現在のテーマに関する最終発表に関する議論						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】シラバスで明示した各回の授業で扱う内容を予習し、予想される疑問点を整理しておく（学習時間：2時間） 【授業後準備学習】授業内で説明した事柄の反芻や授業内でのディスカッションで指摘された問題点の復習などを行い、授業で扱われた内容を自分なりに整理する（学習時間：2時間）						
授業方法	発表						
評価基準と評価方法	発表と最終レポートをそれぞれ50%ずつ評価失する。						

履修上の注意	■参加者は積極的に学会に参加し、発表応募を行うこと。
教科書	
参考書	

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習V						
担当教員	柏本 吉章					科目ナンバ-	DL7040
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	モダリティとその周辺						
授業の概要	モダリティを中心とした英語の動詞文法が表現する心理的意味について、各種の文献を講読しながら、その体系的な整理の可能性について考える。						
到達目標	(1) モダリティに関する各種概念に習熟し、英語のモダリティ表現を体系的に整理して示すことができる。 (2) 動詞文法による心理的表現機能を深く理解し、自らの視点を定めて議論することができる。						
授業計画	<p>第1回 前期Introduction: モダリティとその周辺</p> <p>第2回 Leechのモダリティ論 (1) 時間の表現との関係</p> <p>第3回 Leechのモダリティ論 (2) 未来表現との関係</p> <p>第4回 Leechのモダリティ論 (3) 心理的意味</p> <p>第5回 Leechのモダリティ論 (4) 対人関係的意味</p> <p>第6回 Leechのモダリティ論 (5) 仮定的意味</p> <p>第7回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第8回 Palmerのモダリティ論 (1) ムードとモダリティ</p> <p>第9回 Palmerのモダリティ論 (2) 仮定法の位置づけ</p> <p>第10回 Palmerのモダリティ論 (3) テンスとモダリティ</p> <p>第11回 Palmerのモダリティ論 (4) アスペクトモダリティ</p> <p>第12回 Palmerのモダリティ論 (5) 主観性</p> <p>第13回 Palmerのモダリティ論 (6) 発話行為とモダリティ</p> <p>第14回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第15回 前期のまとめとレポート作成指導</p> <p>第16回 後期Introduction: 英語のモダリティと日本語のモダリティ</p> <p>第17回 Huddlestonのモダリティ論 (1) 動詞の文法</p> <p>第18回 Huddlestonのモダリティ論 (2) テンスとモダリティ</p> <p>第19回 Huddlestonのモダリティ論 (3) 時間的意味と法的意味</p> <p>第20回 Huddlestonのモダリティ論 (4) モダリティと主観性</p> <p>第21回 Huddlestonのモダリティ論 (5) モダリティの強さ</p> <p>第22回 Huddlestonのモダリティ論 (6) 仮定法</p> <p>第23回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第24回 日英語のモダリティ (1) 主観性の表現</p> <p>第25回 日英語のモダリティ (2) モダリティと命題</p> <p>第26回 日英語のモダリティ (3) 副詞的表現</p> <p>第27回 日英語のモダリティ (4) 感情表現のモダリティ</p> <p>第28回 日英語のモダリティ (5) 仮定の表現</p> <p>第29回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第30回 後期のまとめとレポート作成指導</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 授業で扱う論文の当該箇所の精読と関連する問題の検討 &lt;2時間&gt;</p> <p>授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理、参考文献の関連箇所の確認 &lt;2時間&gt;</p>						
授業方法	論文の講読とそれに基づく発表およびディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点(授業での貢献度)40%、期末課題成績60%						
履修上の注意	ディスカッションへの積極的な参加を期待する。						



教科書	プリント使用
参考書	澤田治美 著『モダリティ』, 開拓社, 2006 Leech, Geoffrey, Meaning and the English Verb, Pearson Education, 2004

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習VI						
担当教員	作井 恵子					科目ナンバー	DL7050
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	質的・量的研究方法						
授業の概要	質的・量的研究方法の代表的なものをそれぞれ学び自分の研究に応用する						
到達目標	「知識・理解」研究方法について必要な知識をえることができる 「汎用的技能」研究方法についての理解を深めるためリサーチデザインをたてられるようになる 「態度・志向性」自分の研究テーマについて掘り下げて文献調査ができるようになる						
授業計画	1. What is research? 2. Qualitative research 3. Ethnography 4. Grounded theory 5. Case study 6. Life history 7. Paradigms 8. Presentation 1 9. Interviews 10. Analysis of interview data 11. Interviews and presentation 12. Observation 13. Analysis of observation data 14. Practical problems of observation 15. Statistical procedures 16. Interpretation: reliability and validity 17. Interpretation: Generalizability 18. Interpretation: Connecting with theory 19. Research paradigms 20. Presentation 2 21. Planning a research 22. Research Questions 23. Research design 24. Resources for research design 25. Independent study 1 26. Independent study 2 27. Independent study 3 28. Critical reviews of research design 29. Presentation 3 30. Review						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分の研究テーマについての先行研究を行う。 授業外の学習については週平均4時間は論文検索や購読、先行研究をまとめることなどに費やすこと。						
授業方法	講義、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション 50%、研究計画 50%						
履修上の注意	自分の研究テーマを絞ったうえで講義を聴くこと						

教科書	授業で指定する
参考書	